

報道関係者各位

2025年12月23日
スマートニュース株式会社

スマートニュース、記事閲覧行動データを活用したマーケティング分析ソリューション「SmartNews Ads Dynamic Affinity」を提供開始

生活者の潜在的な興味・関心を可視化し、第一弾としてデータクリーンルームを活用して
博報堂・Hakuhodo DY ONEと共同で広告主のマーケティング分析を支援

世界中の良質な情報を必要な人に送り届けることをミッションとするスマートニュース株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO：浜本階生）は、当社の広告事業「SmartNews Ads」において、ニュースアプリ「SmartNews」における記事閲覧行動データを活用したマーケティング分析ソリューション「SmartNews Ads Dynamic Affinity」の提供を開始しました。

本ソリューションは、ニュースアプリ「SmartNews」上でのニュースやコンテンツの閲覧傾向、広告接触履歴など、スマートニュースが保有する独自データを活用し、生活者の潜在的な興味・関心を可視化・分析できるものです。これにより、広告主はターゲットの理解を深め、より効果的なマーケティング施策の立案・検証を行うことが可能になります。第一弾として、株式会社博報堂および株式会社Hakuhodo DY ONEと連携し、広告主や広告代理店に向けた分析支援を通じて、企業のマーケティング活動の高度化に貢献します。特定の個人を識別できないように各種データを統計的に処理し、プライバシーに配慮した安全な環境であるデータクリーンルームを活用することで、これらの分析支援サービスを実現していきます。



SmartNews Ads

SmartNews Ads Dynamic Affinity

記事閲覧行動データをもとに生活者の
潜在的な興味関心を可視化・分析

「SmartNews Ads Dynamic Affinity」提供開始の背景

データドリブン・マーケティングの進展と新たな課題

近年、広告主や広告代理店では、自社やパートナーが保有するデータを活用し、生活者の関心や行動をよりの確に捉える「データドリブン・マーケティング」が一層進展しています。一方で、生活者のプライバシー保護への社会的関心が高まり、個人情報の取得や利用に関する規制も進んでいます。このような環境変化のもと、企業のマーケティング活動には、個人情報に直接触れることなく、安全かつ効果的にデータを分析・活用できる仕組みが求められています。こうした背景を踏まえ、スマートニュースでは、生活者の多様な情報接触や関心の変化をプライバシーに配慮しながら捉える、新たなデータ活用基盤の構築を進めてきました。

スマートニュースが持つ独自のデータと活用の取り組み

スマートニュースは、記事閲覧という生活者の“無意識の行動データ”に着目し、これをマーケティング価値の高いインサイトへ変換する「SmartNews Ads Data Products」の開発を推進しています。ニュースアプリ「SmartNews」は、3,000以上の提携媒体から毎日約40万本の記事を配信しており、政治・経済からライフスタイルまで、幅広いテーマにおける生活者の興味・関心を把握できる国内有数のデータ基盤を有しています。

これらの独自データをもとに、生活者の潜在的な興味・関心や情報接触の文脈を動的に可視化し、広告主や広告代理店のマーケティング活動に新たな価値をもたらすことを目指しています。今回提供を開始する「SmartNews Ads Dynamic Affinity」は、こうした取り組みを具現化するソリューションのひとつです。

「SmartNews Ads Dynamic Affinity」の概要

「SmartNews Ads Dynamic Affinity」は、ニュースアプリ「SmartNews」における記事閲覧行動データをもとに、生活者の興味・関心を約800カテゴリでAIスコア化し、潜在的な関心構造を動的に分析できるソリューションです。生活者の“無意識の情報接触”から、ブランドや商品への関心が高まる前段階の兆しを可視化し、広告主や広告代理店による精緻なターゲット理解とプランニングを可能にします。データはプライバシーに配慮したデータクリーンルームで扱われ、広告主・広告代理店の1st Partyデータと安全に照合・分析できます。

主な特長は次のとおりです。

- 生活者理解の深化：記事閲覧行動データを活用し、生活者の興味・関心の変化を時系列で分析。ブランドやカテゴリー別の潜在層を把握できます。
- マーケティング活用への展開：抽出したペルソナやセグメントをSmartNews広告の配信ターゲットとして活用可能。ブランド戦略やキャンペーン設計に活かされます。

- プライバシー保護と透明性：分析はすべてスマートニュースが構築したデータクリーンルーム環境内で実施。個人を特定せず、安全なデータ活用を実現します。

なお、本ソリューションで活用する生活者の興味・関心データの生成およびスコアリング手法については、スマートニュースとして関連特許を出願済みです。

SmartNews Ads Dynamic Affinity：概要と特徴



博報堂・Hakuhodo DY ONEとの連携について

本ソリューションでは、博報堂およびHakuhodo DY ONEと協働し、広告主のマーケティング分析を支援します。両社が保有・契約する購買データや視聴データと、スマートニュースが保有する記事読読行動データを安全な環境下で組み合わせることで、生活者の関心から購買に至るまでの行動をより精緻に可視化し、広告主のマーケティング施策の高度化に貢献します。

スマートニュースは今後も、記事読読行動データをはじめとする独自データを活用した「SmartNews Ads Data Products」の開発を推進し、様々な広告主や広告代理店のマーケティング活動を支援していきます。生活者のプライバシー保護を前提に、ニュースアプリを通じて蓄積される多様なデータを活用し、分析・プランニング・効果検証など各プロセスをより高度化することで、広告価値の最大化を目指します。

本件に関する広告主・広告会社様からのお問合せ先
メールアドレス：ads-promotion@smartnews.com

SmartNews Ads について



SmartNews Adsとは、ニュースアプリ「スマートニュース(SmartNews)」に配信できる広告です。スマートニュースは、アプリ上に、インフィード、動画、ディスプレイ等様々な方法で広告配信を行っています。また、1人ひとりの関心にあわせたニュースとともに、有益な情報の1つとして広告を配信できます。 <https://ads.smartnews.com/home/>

スマートニュース株式会社について

スマートニュース株式会社は2012年6月15日の設立以来、「世界中の良質な情報を必要な人に送り届ける」をミッションに掲げ、日本と米国でニュースアプリ「SmartNews（スマートニュース）」を開発、国内のニュースアプリとしては最大級のユーザー数を誇ります。2023年末からは初めてのサブスクリプションサービス「SmartNews+」を開始、子会社のスローニュースとともに、優れたジャーナリズムによって生まれた良質な報道や多様なコンテンツを一人でも多くの利用者に届けることに力を注いでいます。世界中の膨大な情報を日夜解析し続けるアルゴリズムと国内外の3,000媒体以上ものメディアパートナーとの強力な提携関係のもと、スマートデバイスに最適化された快適なインターフェースを通じて、良質な情報を一人でも多くの利用者に効果的に届けることで、これからも社会に貢献していく考えです。 <https://about.smartnews.com/ja/>

本件に関する報道関係者からのお問合せ先

スマートニュース 広報担当（田中）

pr_jp@smartnews.com